

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181
http://nichiren-monka.org/

令和元年 10月13日
第60号

顕本法華宗管長就任挨拶

顕本法華宗管長
総本山妙満寺第三〇七世貫首

大川日仰



平成三十一年三月二日に、
顕本法華宗管長・総本山妙
満寺第三〇七世貫首に就任
いたしました。京都寂光寺
の大川日仰でございます。

元より薄徳非才ですが、宗
祖日蓮大聖人、開祖日什大
正師の教えに基づき、愛宗
護法^レの精神を忘れず努力
精進致す所存でございます。

ご承知の通り、天皇陛下
が生前退位されて新しい元
号が「令和」になり、私が「平
成」から「令和」時代の節
目の管長・貫首となります
ことに、大変身の引き締ま
る思いでおります。

顧みれば、私が初めて京
都聖祖門下連合会（昭和
四十年に、京都日蓮聖人門
下連合会に改称）の行事に
参列したのは、中学二年生
の昭和三十三年十月九日の、
京都円山公園音楽堂に於い
て開催された「日蓮大聖人
お会式万灯行列」でした。

莊嚴な法要の後、京都
十六本山のお会式桜に飾ら
れた高張大万灯に続いて、
僧俗千数百名各々が紅提灯
を持ち、夜の四条通り・河
原町通りを経て、法華宗（本
門流）大本山本能寺までの
大行進でした。その時の法
悦の感動が、顕本法華宗の
僧侶になる決心をした動機
の一つとなりました。

さて、令和三年は「宗祖
日蓮大聖人御降誕八百年」
の慶祝を迎えることになり
ます。門下連合会加盟団体
がさらなる結束を図り、時
宜適応の積極的な布教活動
をおこない、大聖人の願ひ
である「仏国土」顕現に邁
進して参りましょう。

『如説修行鈔』に曰く、天
下万民諸乘一仏乗と成て妙
法独り繁昌せん時、万民一
同に南無妙法蓮華経と唱奉
らば、吹風枝をならさず、
雨攘を不碎。代は義農の世
となりて、今生には不祥の
災難を払ひ長生の術を得、
人法共に不老不死之理顕れ
ん時を各各御覽ぜよ。現世
安穩の証文不可有疑者也。
等云々。
南無妙法蓮華経

令和元年五月十五日（水）、
日蓮宗総本山身延山久遠寺
で、「日蓮聖人門下連合会祖廟
参詣・身延理事会」が開催さ
れ、全国日蓮聖人門下連合会
の顧問・常任理事・理事・監
査・大阪門下懇話会理事長な
ど三十二名が参列した。

午前十一時半、御廟法務所
に集合し、祖廟にて法味言上
及び記念撮影。続き、報恩閣
へ移動し、午後一時五十分
より理事会が開催された。
中川法政理事長が座長とな
り議題に沿って議事を進行。
「平成三十年度事業報告」「平
成三十年年度決算報告」につ
いて事務局より報告。決算報告
では監査の遠藤文祥師より、
監査結果が報告され、一同承
認。次に、「令和元年度事業計
画案」「令和元年度予算案」を
事務局より提案、一同承認。
引き続き、事務局より「御降
誕八〇〇年度慶讃諸事業」に
関する決算報告・予算案・事業
報告の説明、また本年六月十
日より六月十四日まで開催さ
れる『西安草堂寺結集』に関
し行程、法要式次第等の説明
並びに確認が行われた。

続いて、「京都門下連合会活
動報告」が橋本一妙京都門下
連合会理事長より、「地方門下
連合会活動に関する報告」が
佐野貫順大阪門下懇話会理事
長よりそれぞれ報告された。
午後三時に閉会した後、会場
を静岡市内「ホテルアソシア
静岡」に移し、午後六時三十
分より懇親会が催され、親睦
と活発な意見交換がなされた。

宗祖ご降誕会
平成三十一年二月十六日
（土）午後一時より京都日蓮
聖人門下連合会総会と宗祖ご
降誕法要を日蓮宗大本山妙満
寺にて開催した。総会では過
年度の事業報告、会計決算報
告が承認され、今年度の事業
計画案、会計予算案を審議し
全て可決された。総会後本堂
にて法華宗真門流総本山本隆
寺貫主上田日猷下より「いま
まだこれだけ、じぶんだけ
になっていませんか」の講題
で法話があり、次に日蓮宗京
都一部寺院婦人会の和讃奉納
引き続き日蓮聖人門下十六本
山各貫首猊下ご臨席のもと、
及川日周猊下大導師にて第
七九八回宗祖ご降誕音楽法要
を厳修し、満座の檀信徒と共
に宗祖への報恩と二年後の正
当ご降誕八〇〇年に向け更
にお題目、法華経の広宣流布を
僧俗一同異体同心でお誓いし
た。

立教開宗会
四月二十六日（金）午前十
時より、宗祖ご遊学十二ヶ年
の霊跡比叡山横川定光院にて
第七六七回立教開宗会を開催
した。先ず法華宗（真門流）
布教師山口英泰上人の「お題
目は世界を救う」の講題で法
話があり、次に日蓮宗京都
一部寺院婦人会の和讃奉納
十一時より京都日蓮聖人門下
連合会会長本山本満寺貫首伊
丹日章猊下大導師のもとに立
教開宗会音楽法要を厳修した。
法要後は臨済宗京都五山の東
福寺へ参詣し日蓮聖人ご遊学
の往時に寄進された本堂（仏
殿）内の大柱「日蓮柱」を問
近に触れ法味を言上した。日
蓮聖人がご寄進された大柱は
明治十四年に本堂と共に焼失
したが、昭和九年に本堂再建
時に熱心な法華経信仰の檀信
徒により再度大柱が寄進され
復興した。それが今に残る「日

京都日蓮聖人門下連合会 事業開催

第五十五回夏季大学

第二十三回由緒寺院巡拝バスツアー

大阪日蓮聖人門下懇話会 事業開催

従地ゆじゅつ

蓮柱」である。

八月三十一日（土）午後一
時より本能寺文化会館で第
五十五回夏季大学を開催した。
第一講目は日蓮宗常任布教師、
松林院住職大西秀樹上人によ
る「日蓮聖人の言いたかった
こと―なぜお題目を唱えるの
か―」の講題での講義があり、
第二講目は公益財団法人角屋
保存会理事長・角屋もてなし
の文化美術館館長中川清生先
生の「高原の歴史と文化」に
ついての講義がありました。
百二十名の参加者は時間を忘
れ最後まで熱心に両講師の講
義に耳を傾けた。

檀信徒とともに京都・大阪
近郊の日蓮聖人由緒寺院を年
ごとに日蓮宗と各法華宗と
を交代に巡るバスツアーも
二十三日を数え本年は、三月
二十六日、六十六名の参加（内
懇話会構成の八宗全ての理事
の参加）者と共に、法華宗（陣
門流）の本山本禅寺、応永
十三年（一四〇六）、門祖日陣
によって、四条堀川に創建、
その後天文法華の乱にて焼失、
その後再建を経て、天正十九
年（一五九一）豊臣秀吉の命
により移転し、現在に至る。
釈迦堂には日蓮聖人の隨身仏
といわれる金銅釈迦如来像が
安置されている。その後、高
瀬川開削者、豪商門倉了以が
その源流に建設した別邸跡「が
んこ高瀬川二条苑」にて昼食
の後、京都鉄道博物館を見学。

日蓮宗・妙光寺に於いて五
月十七日に開催され、開催に
当たって、法味言上の後、本
年は、日蓮本宗・圓頓寺・佐
藤哲夫顧問による「アウンサ
ンズ・チーさんのビルマか
らの手紙」を公演いただき、
のち総会に入った。議事は、
人事を含め、平成三十年年度事
業報告、平成三十年年度会計報
告、平成三十一年度事業計画
案が全会一致で承認された。

今秋10月1日、消費税
が10%に増税された。
消費税は1989年に
はじめて導入され、8
年後の97年には5%
に、2014年には
8%となり、そして10
月から2桁となる10%
になった。そして今回
増税されると共に、食
料品や新聞の一部では
消費税が8%のままの
「軽減税率」というシステムが
適用された。しかし、この「軽
減税率」の適用の範囲やル
ールが複雑。多くの人が慣れる
まで、少々混乱が続いている。
▼では、そもそも税はいつか
ら始まったのだろうか。遡ること
弥生時代。日本の税に関する
最古の記録が「魏志倭人伝」
にある。「女王卑弥呼が支配
する邪馬台国には、建物や倉
庫があって、集めた税を納め
ていた」と言われている。そ
の後の飛鳥時代には、農作物
や布・絹を納める「租・庸・
調税」という税の仕組みがで
きた。

▼江戸時代になると田畑に課
税される年貢が税の中心と
なったが、税収を安定させる
ために、もっている土地に税
金をかけたたり、所得税や法人
税の仕組みが明治時代から始
まり、今日に至る。

▼その税の使い道は国民の生
活を支えるため、たとえば「消
防・警察」「教育」「医療・介
護」などの公共サービスの運
営費用に多く税金が使われて
いる。もしも税金が無かった
ら、どうなるだろうか？ 多
くの公共サービスが有料にな
り、今よりも高額になってし
まうかも。そして多くの国民
は不便を感じ、心が休まらな
いだろう。

▼法華経の教え「国土の安
穩」。言うまでもないが「安
穩」は「安んずる」とある。
多くの国民が幸せな生活を送
るためにも、国の中枢の方に
は是非とも、人びとが安心し、
笑顔で暮らせる日本の社会づ
くりのために税金を使ってほ
しいものだ。
(明)

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成三一・三・二	山本日恵 大川日仰	顕本法華宗	顧問	就任	退任
令和一・七・一	庄中恵允 難波壽顯	日蓮宗	幹事	就任	退任

日蓮宗宗務院

管 長 菅野日彰 財務部長 木村吉孝
 宗務総長 中川法政 宗務総長室長 木内隆志
 伝道局長 塩田義徹 現代宗教研究所長 三原正資
 総務局長 松永慈弘 日蓮新聞社社長 館岡壽宣
 伝道部長 松井大英 参 与 山口裕光
 教務部長 北山孝治 参 与 吉田顕綱
 総務部長 田中恵紳

〒146-8544 東京都大田区池上一-三二-一五
 電話 〇三(三七五一)七一一一
 FAX 〇三(三七五一)七一八六
<https://www.nichiren.or.jp>

法華宗(本門流)宗務院

管 長 佐藤日賢
 宗務総長 二瓶海照
 総務部長 三吉廣明
 教務部長 清水常光
 布教部長 吉崎長生
 財務部長 久野晃秀
 企画部長 平田義生

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二一九-一
 電話 〇三(五六一四)三〇五五
 FAX 〇三(五六一四)三〇五六
<http://www.hokkeshu.or.jp>

顕本法華宗宗務院

管 長 大川日仰
 宗務総長 河野時巧
 宗務次長 吉永義康
 教務部長 小松正学
 財務部長 吉田諦規
 庶務部長 小島芳明
 社会部長 齊藤成貴
 布教部長 朝倉俊泰

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
 電話 〇七五(七九一)七一七一
 FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長 門谷日悠
 宗務総長 西山英仁
 総務部長 牧野秀成
 教務部長 布施義高
 財務部長 金原孝宜
 教化部長 松吉慶憲
 企画部長 今井満良

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-三五-一六
 電話 〇三(三九一八)七二九〇
 FAX 〇三(三五七六)〇一一一

本門佛立宗 宗務本庁

宗務総長 小西日演
 宗務副総長 西村日要
 宗務副総長 谷 信一
 教育局長 高須日因
 弘通局長 吉田日景
 総務局長 小野山日将
 広報局長 柏 日胤
 財務局長 小林日就
 奉賛局長 松本日就

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る東堅町一〇番地
 電話 〇七五(四六一)一六六六
 FAX 〇七五(四六四)五九九九

日蓮本宗宗務院

管 長 丹治日遠

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
 電話 〇七五(七七二)三三九〇
 FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管 長 上田日猷
 宗務総長 堀 智泰
 総務部長 堀内浩善
 教務部長 峰尾泉栄
 教化部長 木田慧明
 社会部長 坂本法保
 財務部長 寺田良正
 参 与 木村完祥

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
 電話 〇七五(四四一)五七六二
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長 別所日山
 宗務総長 香川日憲
 総務部長 増田隆雄
 宗務部長 吉村日彦
 財務部長 高邊晶啓
 教務部長 山下揮正
 庶務部長 松本真隆

〒602-8418 京都市上京区寺之内通大宮東入大木山妙蓮寺内
 電話 〇七五(四五二)三五二七
 FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賽 主 田中壮谷
 理事長 原田義彦
 門連理事 森山真治
 門連常任理事 藤本坦孝
 門連理事 的場春奈
 編集委員 [門連だより]

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六-一九一-一八
 電話 〇三(三六五六)七二二二
 FAX 〇三(三六五六)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

日本山妙法寺大僧伽

首 座 吉田行典
 責任役員 今井行康
 同 木津博充
 同 川岸行孝
 同 武田隆雄
 同 長濱行豊
 同 行徳行得

日本山妙法寺大僧伽事務局
 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町八一七
 電話 〇三(三四六一)九三六三
 FAX 〇三(三四六一)九三六七

京都日蓮聖人門下連合会

会 長 伊丹日章
 副会長 上田日猷
 理事長 橋本一妙
 副理事長 永岡悠希

京門連事務局
 〒606-8376 京都市左京区二条通川端東入大菊町九六
 頂妙寺布教会館内日蓮宗京都府第一宗務所内
 電話 〇七五(七六一)二四一一
 FAX 〇七五(七五二)九三三八

大阪日蓮聖人門下懇話会

理事長 佐野貫順 事 福島正堯
 副理事長 末澤禎隆 事 木下真良
 理事・会計 松井英光 事 京藤日應
 理事 門谷光瑞 事 森田進
 理事 藤本経尚 事 吉村日彦
 理事 笹川行恒 事 高橋次郎

〒542-0012 大阪府大阪市中央区谷町八-一-四一
 電話 〇六(六七六一)一九〇九
 FAX 〇六(六七六一)一九〇九
 妙光寺内

日蓮聖人御降誕八〇〇年記念慶讃事業

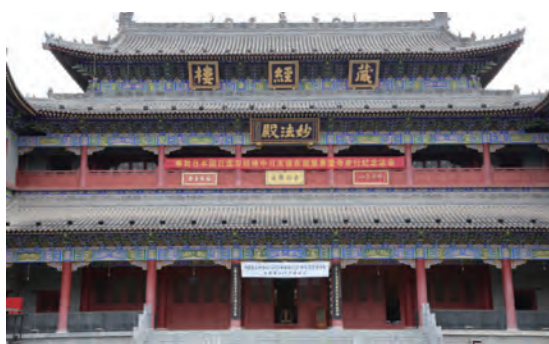
西安草堂寺結集

「日蓮聖人御降誕八〇〇年記念慶讃事業」活動報告 西安草堂寺結集 開催

令和三年二月十六日にお迎えする「日蓮聖人御降誕八〇〇年」記念慶讃事業の一つである「西安草堂寺結集」が約三年の準備期間を経て本年六月十日(月)から同月十四日(金)の五日間にかけて開催された。

参加者は六月十日に成田空港、並びに関西空港より、それぞれ出発。成田空港発は上海、関西空港発は青島にて乗り継ぎ、西安へ到着した。

翌十一日、午前八時に「シェラトン西安ホテル」を出発し、午前九時に西安草堂寺に到着。草堂寺住職・釋諦性法師らの歓迎を受けた。今回の「西安草堂寺結集」に際し、門下連合会では蔵経楼外壁に安置される「如来寿量品第十六」を奉納したが、各派代表者の名前が刻銘された碑の前で記念撮影する姿も多く見られた。



法要が行われた草堂寺蔵経楼

午前十時半より草堂寺蔵経楼にて「日蓮聖人御降誕八〇〇年慶讃記念 鳩摩羅什三蔵法師 報恩大法要」が、中川法政理事長(日蓮宗宗務総長)・大導師のもと、副導師に顕本法華宗 河野時巧宗務総長、法華宗(陣門流) 西山英仁宗務総長、法華宗(真門流) 堀智泰宗務総長、法華宗(本門流) 三吉廣明総務部長、また、式衆として身延山久遠寺在院生八名の出仕により厳修された。

法要には草堂寺住職・釋諦性法師、中国仏教協会副会長・陝西省仏教会会長 増勤法師、各派管長・本山貫首・身延山参拝団・僧侶・檀信徒総勢約百四十名、また草堂寺関係者も多数参列した。顕本法華宗本隆寺檀徒の清水マサ子氏の献茶供養により法要が開式され、道場偈、勸請に続き、自我偈が読誦されると、式衆より色とりどりの散華が高々と撒かれた。

中川理事長は慶讃文において「乃ち羅什法師はただ經典翻訳の人に非ず。教主釈尊の御心に触れ、その本懐を正しく領解し以て法華経を翻訳し、漢土に於ける法華仏教の源を将来せしめたる聖者と謂いつべし。(中略)我等、宗風宣揚、正法興隆に異体同心刻苦励精せんことを此処に誓願し奉る。」と羅什法師を讃歎し、誓いを新たにされた。その後、報恩のお題目が参列者一同、異体同心に唱えられて法要が終了した。

法要後は会場を近くの「南山温泉レストラン」に移し、昼食懇親会が開かれた。中川法政理事長、持田日勇身延山久遠寺総務(門下連合会相談役)の挨拶の後、参加者一同よりの奉納金が釋諦性法師に贈呈され、更なる日中両国仏教界の発展と交流に向け、懇親がはかられた。釋諦性法師は「この法要をもって日蓮聖人門下連合会との親近感が増し、日中友好が末永く続くことを祈ります」と挨拶された。参拝団はその後、世界文化遺産である秦始皇帝陵を囲む「兵馬俑坑」を参観し、圧倒されるほどの展示を前に中国史の一端を学んだ。



鳩摩羅什三蔵像

午後七時から「シェラトン西安ホテル」にて夕食中、閉宴となった。

懇親会が開催され、各宗派からの参拝団全てが集った。法要の感動覚めやらぬ中、参加者はその思いの丈を語り、大いに親交を深めあった。また、琵琶演奏や、中国伝統芸能の「変面」、更には顕本法華宗参拝団による「日蓮聖人のうた」が披露され、大いなる盛り上がりの中、閉宴となった。

十二日には西安市内、大慈恩寺の大雁塔を観光の後、上海へ移動。夕食は「上海雑技団鑑賞組」と、「夜景を臨むクルーズツアー組」に分かれ、参加者は上海の夜を楽しんだ。

十三日は終日、「蘇州一日観光組」と、「朱家角水郷を巡るツアー組」に分かれて観光、それぞれ中国の旅を堪能した。

午後六時から、市内レストランにて一同揃っての「さよならパーティ」が開催され、この四日間の感想や思いなどが語られるなど更に懇親を深め、お互いに再会を誓い合った。

翌十四日に参加者はそれぞれ帰路につき、「草堂寺結集」の全行程が終了した。

日蓮聖人門下連合会 理事長挨拶



日蓮聖人門下連合会理事長
中川法政

この度の日蓮聖人門下連合会主催「西安草堂寺結集」に際し、門下連合の各宗派、教団、また実行委員の各聖各位には、絶大なる御尽力を賜りましたこと、到底言葉にては言い尽くせない感謝の念を込めまして、衷心より御礼申し上げます。又、中国草堂寺ご住職・釋諦性法師を始めとする皆様方におかれましては、私どもを暖かく迎えて下さり、心より感謝申し上げます。

草堂寺の山門に参りますと、多くの善男善女の方々に迎え入れられ、最奥にございます蔵経楼に案内されました。異国の言葉で歌うように唱えられる経文や、日本の寺院とは異なる境内の様子の一つ一つに心を奪われ、法華経の聖地に足を踏み入れた事に対する感激たるや、千言万語を以てしても名状し難いものでございました。日蓮聖人を祖とする各門流が集い、心を同じくして唱えられるお題目は蔵経楼全体に響き渡り、その荘厳なる雰囲気、生

涯忘れられないであろう感動が私の胸に刻まれました。この感激の余韻は法要を終え帰国した今でも、私の中に留まり続けております。私たちが日蓮聖人門下連合会にとって、鳩摩羅什三蔵法師へ報恩感謝の誠を捧げることが非常に大きな意味を持ちます。鳩摩羅什三蔵法師の偉業無くして私たちが、諸仏出世の本懐たる法華経に巡り会うことは叶わなかったからであります。鳩摩羅什法師は一切衆生を大乘の教えに依って救いたいという一心で、仏教聖典の翻訳とその広宣流布に臨んだとされております。私たちが一切衆生に対する鳩摩羅什法師の思いに倣い、全身全霊を以て法華経の広宣流布に尽力して参りたく存じます。

結びに、日蓮聖人門下連合会の各聖各位と共に、更なる仏教興隆並びに立正安国世界平和実現の為、互いに切磋琢磨し、親しく尽力していくことを誓い、ご挨拶とさせていただきます。
南無妙法蓮華経

鳩摩羅什三蔵法師報恩大法要慶讃文

南無輪圓具足未曾有大曼荼羅御本尊、南無久遠実成大
恩教主本師釈迦牟尼佛、南無平等大慧一乘妙法蓮華經、
南無末法有縁之大導師本化上行高祖日蓮大菩薩、一乘擁
護の諸天善神等の知見照覧を仰ぎ、妙法蓮華經翻訳之
聖者鳩摩羅什三蔵法師報恩大法要を此処草堂寺に於い
て虔修するに当たり、沙門日信、正に今宿縁の追う所請
ぜられ、来たりて導師となり、恭しく慶讃の辞を告げ奉
る。

伏して惟んみるに、妙法蓮華經は三世諸仏出世の本懐、
普く一切衆生を無上道へ入らしめる大法なり。妙法蓮華
經の五字は能撰の惣名、二十八品は玄奘一部の所撰な
り。然うして句々の下通じて妙名を結す。一一の文文、
真佛に非ざることなし。日蓮大菩薩、『開目抄』に示し
て曰わく、

「此經一部 八卷 二十八品 六万九千三百八十四字、
一々に皆妙の一字を備えて三十二相八十種好の仏陀な
り。」等云々。

更に『撰時抄』に於いては鳩摩羅什三蔵法師を讃えて
曰わく、
「月支より漢土に經論をわたす人、舊譯、新譯に
一百八十六人なり。羅什三蔵一人を除てはいづれの人々
も誤らざるはなし。」等云々。

乃ち羅什法師はただ經典翻訳の人に非ず。教主釈尊の
御心に触れ、その本懐を正しく領解し以て法華經を翻訳
し、漢土に於ける法華仏教の源を将来せしめたる聖者と
謂いつべし。

状を案ずるに法師、龜茲国に生まれ、父母より名を賜
り鳩摩羅什と名づく。七歳にして仏道に入り、日ごと
一千偈を誦誦す。その後、諸国を遊学し、大乘の教えに
傾倒す。『高僧伝』に曰く、師、仏教のみならず巧みに
言語を操り、五明にも通ず。智慧深きこと大海の如し。
また、その人慈愛深く、己を虚しくして人々を善導し、
物事の妙義に通達す。

時は弘始三年、秦王姚興の願いにより長安に入る。姚
興国師の礼を以て師に接し、聖教興隆・広宣流布の為、

令和元年六月十一日 午前十時半

於 中国西安草堂寺 蔵経楼

日蓮聖人御降誕八〇〇年慶讃記念

鳩摩羅什三蔵法師 報恩大法要

式次第

- 一、献 茶
- 一、開式之辞
- 一、道場偈
- 一、勸 請
- 一、読 經 自我偈
- 一、慶讃文
- 一、祖 訓 曾谷入道殿許御書
- 一、唱 題
- 一、回 向
- 一、四 誓
- 一、奉 送
- 一、閉式之辞

以上

大導師

門下連合会理事長

日蓮宗 宗務総長
中川 法政

副導師

門下連合会常任理事

顕本法華宗 宗務総長
河野 時巧

法華宗(陣門流) 宗務総長
西山 英仁

法華宗(真門流) 宗務総長
堀 智泰

法華宗(本門流)
宗務総長 名代
三吉 廣明

式衆

身延山久遠寺 在院生



顕本法華宗本隆寺檀徒 清水マサ子氏の献茶供養



草堂寺住職 釋諦性法師から中川理事長に「佛」と揮毛された書と鳩摩羅什三蔵法師像が贈呈された

經典翻譯を願う。師、願いに応え、經典翻譯を以て大乘の義を東国へ弘めんとす。『大品經序』に曰く、
「法師は手に胡本を執り、口に秦の言を宣べ、異音を両訳し、文旨を交弁せり。」等云々。

その淨業甚だ顕著なり。此の淨業、東国に於ける大乘妙義の礎となる。

係る淨業無くしては、天台智者大師による文句・玄義・止觀の大部は示されず、五時八教を以て聖教を判ずること能わず。我が国日本に至りては、伝教大師これを継承し、日蓮大菩薩、比叡山に登りて一切経が示したる聖教の要、法華經こそ後五百歳広宣流布の大白法たる所以を知り給う。此れ正に三国四師の系譜なり。

時を経て今般、末代の門弟たる我等日蓮聖人門下連合会、日蓮大菩薩降誕によって生ぜし、妙法蓮華經と我等との縁に報謝せんと、中国草堂寺参拝団を結成す。異体同心の祖訓を奉じ、一天四海 皆帰妙法の祖願成就せんと願業を立てるに至る。然りと雖も、世界の情勢は甚だ複雑にして、前途頗る艱難を想わしむ。濁世末法の様相、眼前に有り。是の時に当たって、令和三年に日蓮大菩薩降誕八百年を迎う。応に是の時を得て妙法広布し、万邦協和して通一仏土の妙相を現前し、以て立正安国淨仏国土を建設するに何ぞ努めざらんや。

今此の妙法蓮華經、翻譯の聖地に真俗の代表を集め、恭しく一筵の法会を設け鳩摩羅什三藏法師への報恩感謝の微衷を表す。我等、宗風宣揚、正法興隆に異体同心刻苦精せんことを此処に誓願し奉る。乃ち經の意を忘失せず仏祖の宿縁に酬えて一乘甚深の法燈を伝えんことを。

仰ぎ願わくは、仏祖、大慈大悲、我等が無二の志を領納し、威神の力を現じて加被を垂れ給わんことを。

南無妙法蓮華經

令和元年六月十一日

日蓮聖人門下連合会理事長

中川 日信

稽首和南



門下連合会各派管長、貫首猊下が参列された



式衆による散華



慶讃文を読み上げる中川理事長



草堂寺概要

草堂寺の位置

草堂寺は陝西省戸県南東部に位置する西安より約三十km、西安咸陽国際空港より約四十五kmの戸県草堂寺観光地にあります。西安市環山旅行道路は東より西へと草堂寺山門前を通ります。寺院の南には秦嶺があり、東西には太平川と高冠川が巡り、古刹は青山緑水に包まれています。交通は、西安環城高速道路、西漢高速道路、西康高速道路のどちらかを利用して、西安市環山旅行道路に出て、此の千年古刹を訪ねることが出来ます。

草堂寺悠久の歴史

草堂寺はもと「大寺」と呼ばれ、古長安城の南西にある皇宮の逍遙園内にありました。逍遙園の広さは一千ヘクタールもあります。西暦四〇一年、西域亀茲高僧鳩摩羅什は後秦の皇帝姚興に招かれ長安に至り、この場所に草堂を結び仏典漢訳の作業を始められました。草堂寺の名前はこれに由来します。以来、草堂寺は中国史上最初の国立仏典漢訳場となりました。

草堂寺は世界に名を馳せる高僧鳩摩羅什の道場であります

常に数多くの方が草堂寺に参拝にいらつしゃいますが、誰の道場であるかについてはあまり知られてお

りません。草堂寺は実に世界に名を馳せる高僧鳩摩羅什の道場であります。

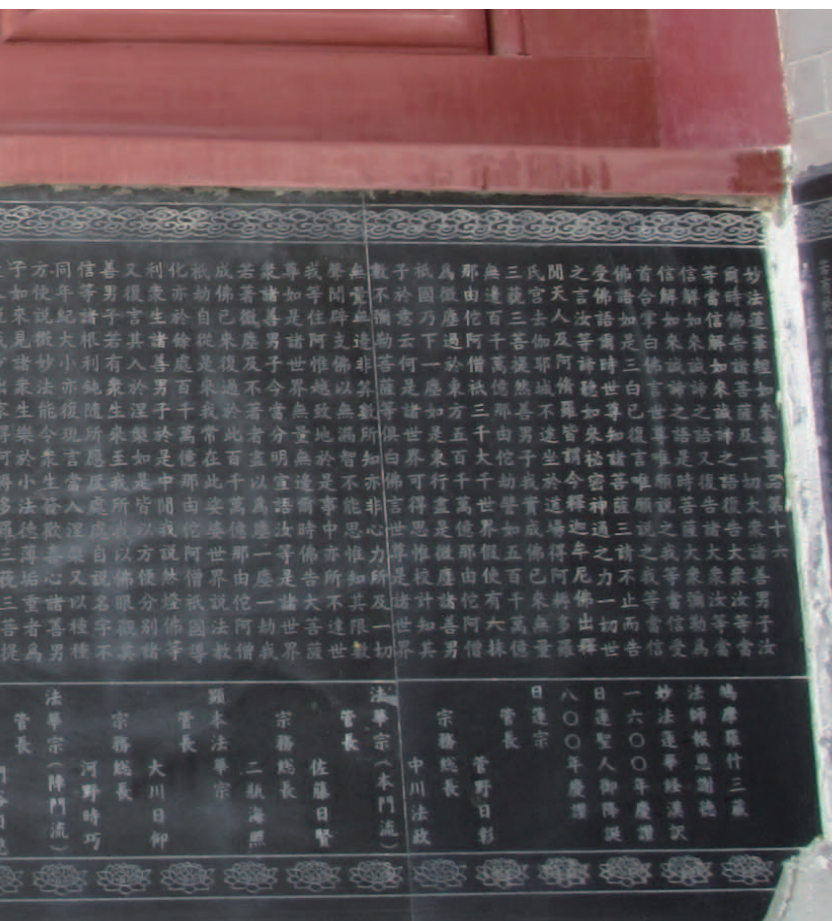
鳩摩羅什は亀茲国（現在の新疆ウイグル自治区クチャ）に生まれ、父親は印度人、母親は亀茲国人で、七歳に母親と出家し、九歳に母親と遊学、十二歳でカシユガルにて経を講じ、忽ち西域諸国において評判となりました。三八四年、呂光について東へと蘭州（現在の甘肅省）武威に着き、そこで十三年間漢文漢語を勉強されました。四〇一年、後秦の皇帝姚興は鳩摩羅什を長安に招き、鳩摩羅什の信念を尊敬し、皇宮の逍遙園内に国立仏典漢訳場である草堂寺を設けました。

鳩摩羅什は草堂寺にて仏典翻訳七十四部三八四卷、漢傳仏教に印度大乘空宗佛敎理論を取り入れ、中国

仏敎文化思想形成の第一人者であります。翻訳された「百論」・「中論」・「十二門論」は、三論宗創立の礎となり、故に草堂寺は三論宗の発祥地ともなります。また、翻訳された「妙法蓮華経」は日本に伝えられた後、日蓮聖人によってその敎えが世界中に弘まっております。鳩摩羅什は草堂寺に於いて仏典翻訳十三年間、弟子約三千人が翻訳に従事しました。

鳩摩羅什は草堂寺に円寂され、荼毘後一枚の舌舍利が得られました。高僧鳩摩羅什の功績を記念する為に、西域諸国及び弟子がその遺骨と舌舍利の埋葬処に玉石塔を建立し、鳩摩羅什舍利塔と名付けました。

高僧鳩摩羅什の漢傳仏敎の創立と伝播に尽くされた功績は世界仏敎史に刻まれております。鳩摩羅什は世界著名な佛学者であり、漢語言文学家であり、翻訳家であり、音律学家であり、星相学家でもありました。





そして草堂寺は仏教の聖地であり、弘法道場であります。草堂寺の僧衆弟子は鳩摩羅什や盛唐時代の輝きを胸に刻み、以て自らを励み、佛法を弘め、愛国愛教に徹し、普く衆生を度せんと務めています。長年に亘り、千仏大戒を三回も授かり、受戒者は一千三百人を超えました。大乘小乗も受け継ぎ、施餓鬼法会等の大きな仏行事の伝承に精進しています。「三国三寺」（中国草堂寺・ベトナム草堂寺・アメリカ草堂寺）は五・一・二四川大震災救援活動を行われ、世界信徒の幸福を祈りました。また、草堂寺は積極的に仏教文化の国際交流を深め、日本・台湾・インド・ベトナム・アメリカ等国々の仏教界の方々と常に文化往来を推進してきました。草堂寺の寺院伽藍は更に良くなり、空气清新に環境優美であり、多くの僧衆・信徒のご参拝を心より歓迎いたします。草堂寺で心の落ち着きを感じしつつ、身心安泰のひと時を体験してみたいかがでしょうか。

（草堂寺パンフレットより翻訳）



鳩摩羅什三蔵法師 舍利塔



門連加盟十一団体が如来寿量品第十六を經石碑として奉納した

中国草堂寺団体参拝者の声

法華宗 (本門流)

結ぶ縁、広がる縁

今回、私は日蓮聖人門下連合会中国草堂寺団体参拝の実行委員として四泊五日の行程に同行させて頂きました。

法要当日は西安市内のホテルから一時間ほど車に乗り郊外の草堂寺に到着。周辺はのどかな田園地帯が広がっていました。

草堂寺で目にした建築・風習・参拝作法はどれも日本式と異なるものばかりで、膝をクッションにあててお参りする参拝の仕方なのですが、特に興味深かったのは境内の諸堂にそれぞれ本棚や段ボールが置かれ、仏教系の書籍やCD、額に入った絵が置かれていたことです。これらは篤信者が寄付をし、参拝人が気になったものを自由に持ち帰って仏縁を紡ぐそうです。経本、読経CDは手の込んだ作りで、それぞれ「結縁品」と記載があり物販品を購入することとはまた違った特別な気持ちになりました。西

安郊外で持ち帰られた結縁品はどの地域まで旅立ったのでしょうか。

今回、私たちが毎日お唱えする法華経が漢訳された地に、法華経にご縁のある方々が集いました。意外にも当日は草堂寺境内で修業される尼僧さんを含む僧侶、地元カメラマン、世界各国からの旅行者などあらゆる人が興味深く法要を見守っていました。法要で境内を清めた散華や撮影された写真、思い出はまた世界各地に広がっていくと考え

ると大法要も一つの結縁と言えるのではないのでしょうか。私も満堂の御題目で鳩摩羅什三蔵法師に法華経漢訳の報恩感謝を奉告させて頂いた大法要当日のことは事あるごとに思い出すことでしょう。

(門下連合会実行委員 後藤妙扇)

翌日早朝の出発にて草堂寺に向かう行程にも関わらず、疲れを感じることもなく法要への期待と鳩摩羅什の報恩感謝を胸に現地に入りました。

草堂寺では地元の方々のお迎えに顔を朗らかにし、整えられた境内に眼を奪われ、荘厳な法要に終始心豊かに過ごすことができました。そこでは千葉県よりご参加の茶人清水マサ子氏による献茶を奉納させていただき、法要に花を添えさせていただきました。

その後の各宗派の懇親会では顕本法華宗の作詞作曲「日蓮大聖人のうた」を披露し、各宗派の垣根を越えて、さまざまな世代を交えて親睦を深めました。

顕本法華宗

顕本法華宗では、河野宗務総長を団長に檀信徒と共に参加いたしました。前日の夜中に西安に入り、

「やっとこの日を迎えることができた。」と、身が引き締まる想いでした。

翌十一日朝、草堂寺へ向かうバスの車窓から見た西安の町の様子は、二十年ほど前に訪れた時とはまるで違い、道路も整備され、都会へと変貌していました。

草堂寺に到着するとさらに驚きました。二十年前とは見違えるほどの、その伽藍の立派さ、境内敷地の綺麗さ広さに目を見張りました。

草堂寺の復興に各方面より絶大なるご支援・ご尽力があったと聞きました。あらためて感謝感激しており、大いなる敬意を表します。

草堂寺の諦性法師をはじめ、僧侶・職員の方々の歓迎を受け、日蓮聖人御降誕八〇〇年慶讃・鳩摩羅什三蔵法師報恩大法要が厳修されました。この法華経漢訳の聖地で、門連各派の管長

祝下・宗務総長台下・各聖人様方ご臨席の中、法要の末席に参列させていただきました。皆様とともにご報恩のお題目をお唱えできましたことは、大変ありがたく、喜びに堪えません。この法要にご尽力いただいた全ての方々に、心より感謝申し上げます。

法華宗 (陣門流)

六月十日夜、日本を發つて約一日、中国西安の地に降り立ちました。空港の建物を振り返ると、「西安」の文字が赤く夜空に浮かび上がっているのが印象的で、

今回、大都会となった上海も訪れました。中国のめざましい発展を目の当たりにすることができ、勉強になりました。

法華宗 (真門流)

西安草堂寺結集記

二〇二一年二月十六日に日蓮大聖人の御降誕八〇〇年を迎えるに当り、その慶讃として本年(二〇一九年)六月十一日、中国陝西省西安市の鳩摩羅什三蔵の報恩法要が日蓮聖人門下連合会主催により奉修されました。

日本各地より一三六名の参加があり、私達法華宗真門流からは十名の参加でした。私たちは前日の六月十日に西安に入り、当日午前九

時に草堂寺に参集。午前十時半より先年落慶した蔵経楼にて日蓮聖人門下連合会理事長、日蓮宗宗務総長中川法政大導師のもと法要が厳修され、感動の一時を得させて頂きました。



鳩摩羅什三蔵法師石像

牧野秀成

終南山は薄く雲霧をまとい、堂塔を取り巻く木々は深く緑し、撃つ鼓の妙音は初夏の風に乗じて秦嶺に響き、諷誦の法声は私達の心を普く満たしてくれました。

日蓮大聖人は「惣じて月支より漢土に経論をわたす人、旧訳新訳に一百八十六人なり。羅什三蔵一人を除いてはいずれの人々も悞ざるはなし。」(撰時抄)。

建治元年六月・於身延・五十四歳)とまで申され鳩摩羅什三蔵を甚く尊崇されておられました。私達も心

より鳩摩羅什三蔵に御報恩の誠を捧げる事が出来ればと願う次第です。法要後精進料理の昼食に与り、その後再び草堂寺を訪れ、草堂寺ご住職 釋諦性師と親しく懇談させて頂き、

また鳩摩羅什三蔵舍利塔にて右遶三返、接足三拜、法華経誦誦し、厚く報恩の御回向をさせて頂きました。

翌十二日には聊か西安の旅情を愉しみ、十三日無事帰国致しました。ここにお世話頂きました関係の皆様方に厚く感謝申し上げ、草堂寺参拝のご報告とさせて頂きます。

令和元年六月十四日 (法華宗(真門流) 本山本境寺 真門学林長 鳩摩羅什三蔵鑽仰会 谷川日康)

本門法華宗

念願の草堂寺

私にとって中国の旅は、三十数回目になり、大雁塔も三回目になります。田舎の埃のみみれた街に、古びた塔だけが立っている時代、立派な門が出来、回廊に三蔵法師がインドまで経典を求めに行き、唐の国まで持ち帰るまでのレリーフが飾られていた時代、そして今回の古刹のようになった大雁塔です。

この度、日蓮聖人御降誕八〇〇年慶讃記念事業として西安草堂寺結集に呼びかけられた時、インドからの経典を漢字に翻訳した草堂寺に是非とも参詣したいと思ひ、団に加えさせてもらいました。

日本の仏教は、漢字を抜



きに考えられません。そして、三蔵法師が持ち帰った経典の中に法華経一部八巻が含まれていなければ、御題目との出会いも生まれませんでした。

私は、法華経を信じる者の聖地、念願の草堂寺で、法要まで勤めさせて頂いたことは、望外の果報者と思っ

ています。車の乗り降り、荷物の運搬、食事、歩行、何かにつけ御面倒をかけた皆様に心より感謝いたします。又、事務局、実行委員の皆様

国柱会

六月十日夜、成田国際空港より上海を経由して西安咸陽国際空港に到着しました。一日中、飛行機の中か空港内の空調の効いた場所に居たため、西安の夜の空気がとても熱く感じられました。夜遅いにも関わらず人や車が多く、また車のクラクションが鳴り響き、更に熱気を帯びているように感じました。ああ随分遠い異国の地に来たなと思ひました。

翌日十一日、ホテルを出発し西安郊外にある草堂寺に向かいます。昨晩は暗かったので、全く外の様子がわからなかったのですが、移動中のバスから見える多大な建設中の建物、地下鉄そして人々の活気に圧倒されました。

草堂寺は中心部から約一時間、まわりを山々に囲まれ、さまざまな鳥が飛び交い（その調べがとても美しいこと！）どこかで優雅な音楽が微かに聴こえ、時間がゆっくりと流れているような自然豊かなお寺です。報恩大法要に参列中、皆それぞれ別の人生があり日々生活している中で、こうして草堂寺で厳かな時間を共有していると思うと、不思議な感覚に囚われました。

何かに導かれてここにいる、そしてそれは幸せなことだと思ひました。いろいろな縁が重なり、同じ信念を持つて皆様とご一緒に歴史的な法要に参拝できたことは、大変貴重な経験であり、私の大きな生きる力となりました。草堂寺、身延山久遠寺参拝団との昼食会、夕食の記念パーティー共に終始和やかに進み、楽しい時間を過

ごしました。あつという間の五日間でしたが、大きなトラブルもなく無事に記念行事を実施できましたことは、皆様のご協力の賜物です。実行委員として感謝申し上げます。ありがとうございました。（門下連合会実行委員 的場春奈）

身延山久遠寺在院生

私たち身延山在院生八名（大学四年・三年）、日蓮聖人御降誕八〇〇年慶讃中国西安・草堂寺の旅に身延山久遠寺参拝団の布教隊として随行させて頂きました。

随行した身延山在院生は、誰一人として中国に渡ったことがなく、未知の国でした。時差は日本が一時程度早く、気候は日本の夏とあまり変わらなく感じました。また、衣食住や文化、伝統の違いを強く感じました。中国で口にする食べ物には日本にある中華料理を想像していましたが、初めての物が多く、そういった点からも中国を堪能できたと思ひます。報恩法要を執り行った草堂寺の他に、法門寺、大慈恩寺、大興善寺と三カ寺参

拝させて頂きました。平日に参拝した寺院もありましたが、私たち以外にも多くの方が参拝されていたように思ひます。各参拝寺院に共通していることは、とにかく境内が広く一つ一つの建物が大きいことです。六月九日に参拝した法門寺では、宝物館見学後に電動カートを使って移動することとなり、広大さに感心しました。また、各寺院参拝の際には、現地の僧侶と懇話会が開かれ、交流する場が設けられました。言葉が違うため、通訳を通しての会話ではありましたが、私たち参拝団を心から歓迎してくださいっているのだと感じました。私自身、外国の方が参拝に來られても、言葉が異なるためなかなか声をかけることができませんでした。今回の参拝で感じたのが、私自身が言葉という壁を作ってしまったというのだと痛感しました。身振り手振り、顔の表情でも十分コミュニケーションを取ることができるのでと気付きました。現地の高僧が「言葉という壁はあるかもしれないが、私たち仏教徒は心がいつも繋がっている」と話してくださいました。本当

檀徒

中国西安草堂寺へ団体参拝させて頂きたいと思うこと

今回、現住職さんと草堂寺への団体参拝旅行に参加させて頂き大変ありがとうございました。ございました。

私は、先代住職さんのお導きで他宗から改宗いたしました。日蓮大聖人のお題目をお唱えすることが出来るようになりました。今年で七十五歳となり、今まで勤めていた仕事等のお役目を少しずつ終えるのと同時に、先代住職から頂いたお題目のご縁を子供や孫にどう繋げようかと思案しておりました。その折りに、現住職さんよりお題目の根源である法華経を訳さ

にありがたい言葉を聞くことができました。今回は、草堂寺の報恩法要をはじめ、多くの貴重な体験や話を聞くことが出来ました。これらの経験を糧に僧道生活に活かしていきたいと思ひます。そして、祖願である「一天四海皆帰妙法」に貢献できるように、昼夜常精進していきます。

※身延山参拝団は一部別行程（身延山久遠寺在院生 総寮長 山口真経）

れた聖地をお参りすることができるといってお誘いを頂きました。西安はシルクロードの始まりで、中国でも奥地であるイメージでしたが、大変遠く不安を感じましたが、有難い法華経とお題目の源の場所なので思い切って申し込みをさせて頂きました。

日本各地から集まった一四〇名を超える方々と一緒に、遠い異国の地で身近なお題目と法華経をお唱えできるといふ不思議なご縁を感じ、ただただ感激と有難い思いで一杯です。年齢的なこともあり体力に不安を感じていましたが、今回の旅行ではもつと年配の方もおられました。そして草堂寺参拝を含めた旅行の行程を経験することで、色々なことに自信がもてる

ことが出来ました。今回、またとない機会のご縁をつくってくださいました法華宗（本門流）宗務院さん、そして日蓮聖人門下連合会の皆様には改めて御礼申し上げます。次第であります。

私もこのご縁を大事に子供や孫に繋げたく思ひます。（埼玉県 法華宗（本門流）妙法寺 檀徒 堀江日出子）

法華宗（本門流）妙法寺 檀徒 堀江日出子

日蓮宗総本山 身延山久遠寺

法主 内野日総
総務 持田日勇

〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七
電話 〇五五六(六二)一〇一一
FAX 〇五五六(六二)一〇九四

日蓮宗大本山 池上本門寺

貫首 菅野日彰
執事長 鈴木弘信
役員一同

〒146-8576 東京都大田区池上一一一一
電話 〇三(三七五二)一三三二
FAX 〇三(三七五二)三三五〇

法華宗(本門流)大本山 本興寺

貫首 小西日遼
執事長 清水常光
役員一同

〒606-0862 兵庫県尼崎市開明町三一―一三
電話 〇六(六四一一)三三二七
FAX 〇六(六四一一)二四三八

顕本法華宗総本山 妙満寺

貫首 大川日仰
総務 吉永義康
執事長 中村英司
執事 湯原正純
執事 土持悠孝
執事 鹿野恒仁
執事 藤本慧昌

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)総本山 本成寺

奉安門下最古一尊四土御本尊
初祖日朗尊聖人七百御遠忌厳修
(令和元年)

貫首 門谷日悠
執事長 平井良光

〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一〇
電話 〇二五六(三三)〇〇〇八
FAX 〇二五六(三三)〇〇五九

法華宗(真門流)総本山 本隆寺

貫主 上田日猷
執事長 永岡悠希
執事 本多信正
執事補 笹木研吾
書記 矢放啓亮

〒602-8447 京都市七区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四二)五七六二
FAX 〇七五(四四二)五六六六

本門法華宗大本山 妙蓮寺

貫首 別所日山
執事長 佐野充照
役員一同

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五二)三五二七
FAX 〇七五(四五二)三五九七

多寶富士山 本山要法寺

貫首 丹治日遠

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七二)三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

本門佛立宗本山 宥清寺

住二十六世講有
高須日良

執事長 白石日是
事務局長 栢森良道

〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

京都八本山会

大本山 本願寺 貫首 伊藤日慈
大本山 妙顕寺 貫首 及川日周
大本山 本満寺 貫首 伊丹日章
会本・本山 立本寺 貫首 上田日瑞
本山 妙傳寺 貫首 野々垣日祐
本山 本法寺 貫首 瀬川日照
本山 妙覺寺 貫首 宮崎日巖
本山 頂妙寺 貫首 田中日淳

京都 法華門流懇話会

法華宗(真門流) 総本山本隆寺 貫主 上田日猷
顕本法華宗 総本山妙満寺 貫首 大川日仰
法華宗(本門流) 大本山本能寺 貫首 桃井日英
本門法華宗 大本山妙蓮寺 貫首 別所日山
日蓮本宗 本山要法寺 貫首 丹治日遠
本門佛立宗 山宥清寺 講有 高須日良
法華宗(陣門流) 本山本禪寺 貫主 福井日進
顕本法華宗 本山寂光寺 貫首 大川日仰

日蓮宗大本山 清澄寺

出家得度の霊場
立教開宗

別当 金子日厚
執事長 宮崎雅宣
役員一同

〒299-5505 千葉県鴨川市清澄三二二二―一
電話 〇四(七〇九四)〇五二五
FAX 〇四(七〇九四)〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。
一六〇名様まで可。

宗祖御降誕霊場 誕生寺

宗祖御降誕八百年に向かつての祈り

貫首 石川日命
執事長 角濱監鏡

〒299-5501 千葉県鴨川市小湊一八三
電話 〇四(七〇九五)二六二一
FAX 〇四(七〇九五)二〇五五

日蓮宗霊跡本山比企谷 妙本寺

貫首 鈴木日敬

〒248-0007 神奈川県鎌倉市大町一―一五一
電話 〇四六七(二二)〇七七七
FAX 〇四六七(二二)六九六七

日興上人御聖廟 富士山法華本門寺根源

貫首 旭日重
参 川名義顕
参 吉田日綱
参 井野上正文
執事長 鈴木春雄

〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)〇三〇三

日蓮宗大本山 中山法華経寺

貫首 新井日湛
参 田代浩敬
参 植田観樹
参 田中貞奨
参 松本慈恵
参 関観亮

〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇一
電話 〇四七(三三四)三三三三
FAX 〇四七(三三四)一七九六

やくよけ祖師 堀之内妙法寺

山主 山田日潮

〒166-0013 東京都杉並区堀之内三一四八―八
電話 〇三(三三三三)六二四一
FAX 〇三(三三三三)五〇〇七

日蓮門下お題目初唱之霊場 藻原寺

貫首 持田日勇
総務 増田寶泉
執事 富永一道
執事 中川貫泰

〒297-0026 千葉県茂原市茂原一―二〇一
電話 〇四七五(二二)三一五三
FAX 〇四七五(二二)一一七三

徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 瑞輪寺

除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安

貫首 井上日修
執事長 稲荷泰雅

〒110-0001 東京都台東区谷中四―二―一五
電話 〇三(三八二二)四三七三
FAX 〇三(三八二二)七〇三三

令和三年二月十六日は
宗祖御降誕八〇〇年を
迎えます



